

# 自己評価の結果について

令和 元年度 (公表シート 様式 4)

学校法人旭川カトリック学園 留萌聖園幼稚園

## 1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己犠牲の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切に教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師の間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育が、子ども達の心に深く根付くために、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。また、保護者のためのカトリック教会司祭との交流の時間を引き続き設定し、保護者への参加を呼びかけていく。
- ・畜産動物の見学等の体験を引き続き継続し、子ども達に「食」の大切さ、「いのちの尊さ」を伝えて行く。
- ・より良い保育・教育に向け、保育者の資質の向上を目指す。
- ・特別な支援を必要とする子だけでなく、全ての子ども達に目が行き届く様、配慮を徹底して行く。
- ・保育に取り入れる事が難しく課題となっている「地域社会との関わり」「幼小連携」を、意義ある活動にしていくため、関係機関に働きかける。また、「10の姿」に繋がる連携を意識しながら進めて行く。
- ・「早期教育(満3歳児保育)」の開始にあたっては、幼児教育における「目的」を明確にし、保護者の理解を得られるように、情報提供を行いながら保育を進めて行く。
- ・保育者の不安や人員不足の解消に努め、保育者が安心して働ける職場環境を整えることにより、心にゆとりを持って、子ども達へのきめ細やかで丁寧な保育を行う事を目指す。
- ・留萌市の幼児教育の充足のためにできる限りの支援・協力をして行く。また、それらが「待機解消までの一時的な預かり保育」にならない様、幼稚園教育の目的、当園の教育方針・教育内容を保護者にしっかりと説明し、十分な理解を得た上で受け入れて行く。

## 3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	前年に引き続き、体験型保育は充実しており、特に畜産動物の見学の経験が、子ども達の情操教育、食育に繋がる良い成果を上げている。昨年度、一時期に行事を詰め込み過ぎて、保育に余裕が無かったと言う反省を踏まえて年間計画を立てたが、やはり大きな行事の前(生活発表会、等)は特に年長児の保育に余裕が無くなる状況が見られた。しかし一方で、保育者の準備作業が間に合っていない一面もあり、今後の課題である。『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』を意識した保育計画は、多くの職員が関連する研修に参加し、やっと理解・方向性が解ってきた段階で、次年度に向け、保育計画の見直しと、幼小連携を密にして行けるカリキュラムの作成に取り組んでいく。また、満3歳児保育開始により、非常勤職員が増え、勤務シフトも複雑になり、なかなか情報共有が徹底されていない事が問題としてあげられているため、担任と補助教諭の連絡・連携をしっかりと取りながら対応を図っていく。
2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	健康と安全への配慮は、朝の自由遊びや園外保育の際に、園児の動きを満遍なく見通せるように人員配置等しているつもりだが、ちょっとした隙にトラブルやケガが発生している。「みんなで見ている」事に依存し過ぎないように、徹底して行く。幼児一人ひとりの発達に合わせた細やかな指導、また満3歳児保育開始にあたり、より年齢の小さい子ども達への対応の仕方や言葉がけ等は、職員全体で相談しながら進める事が出来たと思われる。しかし、保育環境や指導方法などまだまだ改善すべき点も多く、他関係機関との連携や、低年齢の保育を学ぶ機会を持つ事が望まれる。子育て支援の一環として、今年度

	<p>は「園行事の振替休日の預かり保育」を開始し、利用児も多い事から、子育て支援としての成果は十分にあったと思われる。しかし、預かり保育の利用者の増加に伴い、子ども達の心のケアや、事故やケガ、トラブル回避のために、担当職員を増員する必要性も出てきており、早急な対応をして行く。</p>
<p>3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。</p>	<p>保育の無償化が開始され、保育内容の充実・保育者としての資質の向上は、園運営にとっても大きな課題である。キャリアアップのための研修参加などが求められてはいるが、ギリギリの人数で保育しているのが現状で、研修等の派遣のために更に人手を確保することはかなり困難を感じる。結果、一部の職員に負担がかかり、残業やオーバーワークに繋がっていることも否めない。改善しなければならない問題である。職員の職務や保育に対する責任感や義務の遂行に関しては、よく守られている。若い保育者は、日々の保育をこなすことで精一杯な部分もあるが、たくさんの「経験」のある補助教諭がいるにも関わらず、その「経験」が上手く伝えられていない事、指導や教育にまでは繋がっていない事から、今後は補助教諭の保育経験をもっと活かせる体制作りを図っていきたい。</p>
<p>4 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<p>園での子どもの様子は、聖園ブログで写真を毎日更新し、十分伝える事が出来ていると思われる。お知らせ、園のたより、クラスだより等は定期的に発行し、情報提供、様々な連絡事項、クラスでの子ども達の様子や関わりなど、出来るだけ詳しくお伝え出来る様に工夫している。昨年度のブラックアウトの経験から、今年度から開始した緊急時連絡のメール配信は、防災訓練や災害時はもちろんの事、送迎バスの緊急連絡や、臨時休園等の連絡にも大変役立っている。留萌市の子ども・子育て会議について、折に触れ会議の様子を伝え、要望等を出してもらおう事で、多くの保護者が市政(子育て支援)に関心を持つ事に繋がったと思われる。(子ども・子育て会議の委員の一般公募で4名が参加となった。)神居岩公園の遊具の更新に関しても、保護者役員にアンケートに協力いただき市に意見書を提出している。</p>
<p>5 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<p>食育関連での畜産動物の農家との交流や見学は、3年目を迎え、園の特色として定着して来ている。また、高齢者施設訪問も、施設側から声がかかる程、楽しみにしていただいている様で、今後も継続して行きたい。ただ、自然に恵まれた環境にありながら上手く保育に取り入れられていない状況があり、もっと自然体験を経験させたいと言う保育者も多い。しかし天候に左右される、行事予定を優先する保育で、後回しになっているのが現状である。地の利を生かし、留萌ならではの自然環境の中で、もっと伸び伸びと子ども達が活動できる保育を取り入れて行く必要がある。また、留萌は水産の町なので、海の仕事や水産加工の仕事などにも関心が向くような取り組みもして行きたい。幼小連携は、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を、それぞれの年齢の発達段階に合わせた保育の中に組み込みながら、どの子にも卒園までに身に付く様に意識しながら保育をして行く。</p>
<p>6 研修と研究 研修・研究を積極的にを行い、専門性を高める努力をする。</p>	<p>研修会への参加は、処遇改善のための必須条件となるため、積極的な参加が見られる。しかし、保育時間帯に実施される研修への参加は、人員の関係上なかなか難しい事もあり、土日開催の研修参加が主である。休日にゆっくり体を休め、新たな鋭気を得て保育にあたるのが望ましいが、研修疲れ(地方での開催が多いため)も見られる。保育者には、健康管理に留意し、体調を整えて良い保育をして欲しい一方で、研修参加が負担になっている事も否めない状況であり、今後の検討課題である。保育者としての専門性は全ての保育者が、あらゆる面で専門性を持ち合わせることは困難である事から、担当を決めて、より研究・研修を積み、園全体へ提供する体制を確立していく必要があると思われる。ピアノ(音楽指導)、運動、自然(栽培や飼育)はどうしても得手不得手もあるため、苦手な事を敬遠しがちである。チームとして、皆で補い合いながら、子ども達に様々な体験や教育を平等に提供する事を優先し、カリキュラムを組んでいく必要があると思われる。</p>
<p>7 情報公開 保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報の保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努</p>	<p>園だより・クラスだより、また必要に応じて出されるお知らせで家庭との連絡をはかり、幼稚園の様子などを情報公開する様に取り組んでいる。特に感染症・伝染病等の発生時には、緊急速報として随時状況をお知らせしている。また、昨年度の学校評価の結果や危機管理マニュアルは、学園ホームページで</p>

力をする。	閲覧出来る様になっている。未就園児対象のちびっこ教室は、園の保育内容を知ってもらい良い機会となっており、また行事にお誘いする事で、園運営を理解してもらえる様な働きかけを積極的に行っている。ちびっこ教室に在籍して、満3歳になったら幼稚園に入園という形が定着しつつあるが、定員10名に対し希望者は多く、受け入れ人数の拡大を望む声も多い事から、保育環境・保育者の確保等、検討しながら進めて行く必要があると思われる。
-------	--

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育の取り組みとして、引き続き宗教指導の司祭による月に一度の「宗教の時間」を実施している。また今年度からは、司祭不在の週に、園長が宗話を行う事で、より心の教育に力を入れている。司祭による保護者対象の宗教のお話し会(月一回)も、保育参観との抱き合わせで、定期的に通う保護者も増加して来ていることから一定の理解を得ているものと判断される。</p> <p>・父親の懇親会も今年度は3回開催され多くの参加があった。父親同士の子育てに関する情報交換や、父親が主体となつての親子レクリエーションも企画・開催され、父親の子育て応援(支援)の場として認知されてきていると思われる。</p> <p>・体験型保育と、いわゆる『行事』保育のバランスの見直しの必要性を感じながらも、何を残すかの選択は難しい。保護者にとっては「参観」や「発表」でしか子どもの様子をうかがい知ることが出来ない部分もあり、安易に減らすことも出来ないが、保育の主役は子ども達であり、子ども達の負担にならない事を第一に考えて、ゆとりある保育計画を立てる様にして行きたい。</p> <p>・「子育て支援」に力を入れ、女性の社会進出を…と言う国の方向性により、保育の無償化、満3歳からの幼児教育、そして預かり保育利用児の増加など、幼稚園としての機能が少しずつ変化して来ている。また、小学校のスタートカリキュラムの充実のために、就学までに身につける事が望ましい項目(10の姿)も、より具体的になり、保育計画の見直しが求められている。しかし、実際の保育現場は慢性化した保育士不足や、見極めの難しい支援を要する児の増加、保育時間の延長による子ども達の心身のケアまでも必要になり、業務内容はますます大変さを増している。離職率の高い保育の仕事だが、子ども達の安心・安全のために必要な人数の確保と、職員の負担軽減や仕事に対する意欲や楽しさを感じられるように、様々な工夫をして行きたい。</p>
---

#### 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	引き続き、保護者参加の防災訓練を実施し、保護者にとっても非常時の危機管理や対応を再確認する良い機会になっていることから、今後も継続して行く。また、園児を対象とした予告無しでの避難訓練、状況設定をいろいろ変えての避難訓練も引き続き実施していく。職員の救急講習、消防訓練、不審者対応の訓練なども、隔年で実施する。園内外の遊具の点検は学校安全計画に沿って実施がより徹底された事から、遊具の安全管理と誤った使い方による事故やケガの防止にも努めていく。衛生的な環境設定のため、昨年度から導入した次亜塩素酸水を使用した空気清浄機により、園内でのインフルエンザ感染による欠席者は、2年連続で0名という結果に繋がっている。冬期間のウィルス対策に特に力を入れ、休園・閉鎖等が無かった事は保護者にも大変喜ばれている。送迎バスの事故防止・安全運転の更なる徹底に努める。
特別支援教育	支援を必要とする子ども達が年々増加の傾向にある事から、引き続き特別支援教育の在り方、取り組みに力を入れて行く。支援を必要とする幼児への関わりのみならず、クラス全体・園全体への指導方法を、実践を通して学んで行くと共に、幼児の発達に関わる諸機関との連携の強化、発達支援センターの「保育所等訪問支援事業」などを有効に活用して行きたい。また、小学校へのスムーズな引き継ぎの面で、保護者の理解を得るための話し合いの場を積極的に持つ。子ども達が安心して教育を受けられるための支援と、幼稚園としての役割を果たして行ける様に努める。
園に対する保護者の満足度の把握	本学園の建学の精神に則った独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、カトリック幼稚園に求められている事を確認する事で、本園の方向性を再認識して行く。また、子育て中の保護者が幼稚園に対し、具体的に

何を期待しているのか、あるいは子育ての悩みや問題にも向き合い、様々な情報に惑わされる事なく、安心して子どもを通わせることが出来る環境にして行く。職員一人一人が子どもにも保護者にも満足、納得してもらえる保育を心掛けながら、協力して、より良い保育を行って行く。子育て支援に関しては単なる過剰サービスではなく、本当に必要な支援(親にとっても子にとっても)とは何かをよく考え、また『教育機関』としての役割から逸することなく、支援・対応を検討して行く。正しい情報提供と、保護者の不安や不信感を払拭出来る様、積極的に相談の場も作って行きたい。(昨年度に引き続き)

## 6. 学校関係者の評価

1. 『保育の計画性』に関しては、「やや満足」から「満足」の回答であった。年間を通しての行事、また季節毎の取り組みの内容、継続性は高く評価されている。また、教育理念に沿った、保育者一人ひとりの子どもへの対応が一貫している点は、親として安心出来るとの意見もあった。園のたよりやクラスだよりに保育目標や保育計画が明示されている事で計画的に保育が行われていると感じるとの評価もあった。ただ、いろいろな体験や新たな試みを取り入れた事、また、保護者の要望を受けて保育参観等を増やした事で、保育に余裕が無くなり、先生方がいつも忙しそうにしている様子もあり、もう少し内容の精査、見直しが必要ではないかとの意見も複数あった。発表会等、行事内容のマナー化も指摘されている通りであり、今後検討していく。満3歳児保育の開始、預かり保育の利用者の増加に伴い、保育者の必要数の確保と適正な配置、経験ある補助教員の活用に期待する意見も多かった事から、今後はより力を入れていく。

2. 『保育の在り方及び対応』に関しては、「やや満足」から「満足」の回答であった。今年から始まった満3歳児保育に関しては、「上の年齢の子ども達にとっても良い影響がある」「子育て支援としての早期受け入れを評価する」「幅広い年齢層での縦割り保育の効果」など良い評価が多かった。一方で人数制限により、満3歳児入園できない子ども達が大勢通う『ちびっこ教室』の在り方・見直しなどを求める声もあった。保育中のケガやトラブルに対する対応は一定の評価を得てはいるが、保護者への報告の在り方に、保育者によって多少のばらつきがあると思われる。また、何かあった時だけではなく、普段から些細な事でも(良い事も悪い事も)子どもの様子を伝えて欲しいとの声もあった。また外部の教育関係者からは、「関係機関との連携や研修会への積極的な参加により、幼児理解、保育環境や指導方法の改善に繋がることから、人手不足の中でも、工夫して積極的に学びの場に参加して欲しい」との意見があがっている。

3. 『保育者としての資質』に関しては、「やや満足」から「満足」の回答であった。「どの先生も自分の組だけではなく、全ての子ども達を見てくれる事に安心出来る。」「保護者の心配を丁寧に聞く姿勢や、一緒に対処してくれようと頑張る姿に感謝している。」「忙しい時にも明るい対応を心掛けていると感じる」等の評価が複数あった。教育関係者からは「保育現場の深刻な人手不足の中、補助教員の経験を生かす体制作り」を望む声があがっている。また「多忙な中でも個々の得意分野の研鑽」「園全体として不足している部分は外部講師等を入れる事で補っていく事も出来るので、現在の運動教室の他にも、専門的な指導の場を提供して欲しい」との意見もあった。

4. 『保護者への対応』に関しては、概ね「満足」、ごく少数で「やや満足」「やや不満足」の回答があった。「満足」の回答としては、「迅速な情報発信」(特に感染症関係)、「緊急連絡メール配信の導入」「ブログで園の様子が良く分かる」等に高い評価の声があった。ただ感染症等の情報発信にあたっては、個人を特定出来ない様な配慮など、慎重を期す事が大事であるとの意見もあり、緊急性がある場合を除き、今後はより注意深く対応していく。低い評価の理由としては、「防災引き取り訓練の日時が事前周知されているため、本当の意味での訓練になっていない。」「園サイドだけではなく、保護者にとっても『訓練』である事を個々が自覚するためにも、実際の災害発生時と同様に、車を使わない事や、就労している母親の対応の訓練も兼ねて、予告無しで実施する事で、皆が真剣に取り組むと思う。」など、前向きな意見が出された。就労している母親に対して、園が配慮し過ぎているとの指摘もあり、今後はこれらの意見を取り入れて、訓練を実施していきたい。外部の教育関係者からは「留萌市の子ども・子育て会議の様子を保護者に伝え、市の子育て支援に関心を持ってもらい、市政への意見書の提出、子育て会議の委員として複数名が参加している事は大変評価される。」との意見があった。今後も子育て世代の保護者の、「生の声」を市政に届けていく。

5. 『地域社会との連携』に関しては、「やや満足」から「満足」の回答であった。食育を目的とした社会見学など、家庭では経験させるのが難しい体験学習に高い評価があった。特に畜産農家の見学後は、家庭でも話題が出来、体験が子どもの食への感謝や関心に生かされている等の感想もあげられていた。しかし、「留萌の町ならではの産業(水産業など)に触れる機会も作って欲しい。」「市内のいろいろな『職場』を見学して、子ども達に様々な『職業』を知って欲しい。」という意見もあった。高齢者施設への訪問の継続、また文化センターでの発表会や聖劇は園に関わりのない多くの市民も観覧している事から、間接的な地域開放であるとの評価もあった。幼小連携はあまり取り組む機会がないためか、保護者の関心の低さを感じた。学校教育における幼稚園の位置づけの変化と共に、今後はますます小学校との連携・情報共有に力を入れ、新一年生がスムーズに学校生活をスタートさせられる様な『土台作り』をして行く。

6. 『情報公開』に関しては、『満足』から『不満足』まで評価が分かれた。4. にも上げられた『感染症等の園の状況の報告』や『感染防止のための情報提供』などに、良い評価が多かった。「園のたより」や「お知らせ」は、「細かく書かれていて良く分かる」という意見から、「情報が多すぎて分かりにくいので箇条書きにするなど読みやすさの工夫が必要では？」という意見も複数あった。つい、あれもこれもと載せてしまいがちだが、今後は必要な情報を精査し、読みやすさの工夫をして行く。緊急メール配信は、仕事をしていて電話に出られない保護者から特に、高く評価された。

7. 『その他』として、「ちびっこ教室の定員増または開催日を週2回に出来ないか?」「園行事時に保護者にもっと役割分担したり、責任を持たせても良いのでは?」(役員会や父親会の活用)、「保育者の確保」等の意見や指摘が複数あった。「年長の子供達の、年下の子に対する接し方が素晴らしいと思う。教育方針のとおり子供達が育っているのを感じる」「インフルエンザの感染者が出ていない事は高く評価すべき」など、園の運営や方針に対して、保護者の一定の理解が得られている事から、今後も保護者の協力を得ながら進めて行く。

## 7. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。

## 8. 次年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・当園の教育の柱となっている、キリスト教の精神と理念に基づいた宗教教育(特に「いのちの尊厳」)が、子供達の心に深く根付くために、引き続き、より伝わりやすい工夫を検討しながら進めて行く。
- ・特別な支援を必要とする子どもだけでなく、全ての子ども達に目が行き届く様、より良い環境の整備と、必要な人材の確保に努める。
- ・『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』の共通理解を深め、計画的に教育活動の質の向上を図って行く。
- ・引き続き、安全な保育環境の整備と事故・ケガの防止に努める。
- ・運動機能の個人差(体力の低下や筋力・体幹の弱さ)が目につく場面が多くなって来ている事から、体育指導講師のアドバイスを受けながら、積極的に「体作り」に取り組んで行く。
- ・恵まれた自然環境を生かした活動を、出来るだけ多く取り入れて行く。また、「いのちの尊厳」を伝える体験型保育も、内容を吟味しながら継続して行っていく。
- ・行事内容の見直し、準備や練習を効率よく行うための工夫に力を入れて行く。
- ・保育者の専門性を習得できる機会を増やし、園全体の保育の質の向上をめざす。また、保育者間の連携強化、情報共有の徹底に努める。